

天文学とイロア プラネタリウム

第54回

今月のお題

ハワイの大地と星空



観測のために訪れたハワイで見た、
生きている地球と最高の星空。



www.tenpla.net

高梨直紘 (国立天文台 広報普及室)

平松正顕 (台湾 国立清華大学)

台湾からハワイへ

電波望遠鏡SMAでの観測のため、ハワイに行ってきました。SMAはハワイ・マウナケア山頂に立地し、口径6mのパラボラアンテナ8台からなる電波干渉計です。アメリカと台湾の研究所が協力して運用しているので、台湾にいる筆者（平松）にも望遠鏡運用当番が回ってくるわけです。今回は初めてのハワイ渡航だったので、観測の楽しみももちろんですが、マウナケアの天文台群を見られるということでも増して気合の入る出張でした。

ご存知のように、マウナケア山頂にはすばる望遠鏡をはじめとして数多くの望遠鏡が設置されています。そして、サンセットや星空を楽しむツアー客もたくさんマウナケアに登ってきます。日本語の話せるツアーコンダクターさんに連れられて日本人観光客もたくさんいらっしゃいますが、その多くがSMAの周りで一度バスを降ります。それは、SMAがすばる望遠鏡の立つ峰の直下にある、すばる望遠鏡を見上げて記

念写真を撮るのに絶好の場所だからです。きっとツアーコンダクターさんがいろいろと説明してくれるんだと思いますが、すばる望遠鏡やSMAの観測成果を紹介する日本語の説明パネルをSMAの建物に貼り付けてもいいのではないかとと思うほどでした。

マウナケアのふもとヒロの街には、天文学とハワイ文化を紹介するイミロア天文学センターがあります。SMAやすばる望遠鏡、UKIRT、JCTM、CSOといったマウナケア天文台群の山麓オフィスのすぐ近くにあるこの施設、デジタルプラネタリウムや国立天文台の4D2Uシアターのほかに、各天文台の観測成果や観測の原理の紹介が地球の成り立ちやハワイの火山活動の紹介とともに展示されています。ハワイ島南部には今も活発に噴煙と溶岩を放出するキラウエア火山があります。人々が暮らし、天文学者が観測施設を建て、あるいは観光客が訪れるハワイ島は今も活動しています。そのハワイ島の活動の源になるのは、地球内部からのブルームの上昇。生きている惑星・地球を肌で感じ、それが自然に宇宙の中での地球の存在を意識させ、足もとか



ハワイ島で生きている地球を感じる平松。

ら宇宙へとスムーズにつながる流れ作り出してくれるハワイ島の自然。天文学者は純粋に観測条件の良さからマウナケアを天文台の建設地として選んだわけですが、こう考えてみるととても理にかなった立地のようにも思えてきます。都会ではなかなか感じられない宇宙、あるいは意識しない宇宙と人間のつながりを目の前で見せてくれるハワイ島は、天文学という営みについても改めて考えさせてくれる場所でした。